



想定東海地震による駿河湾西部津波防災情報図広域版（進入）

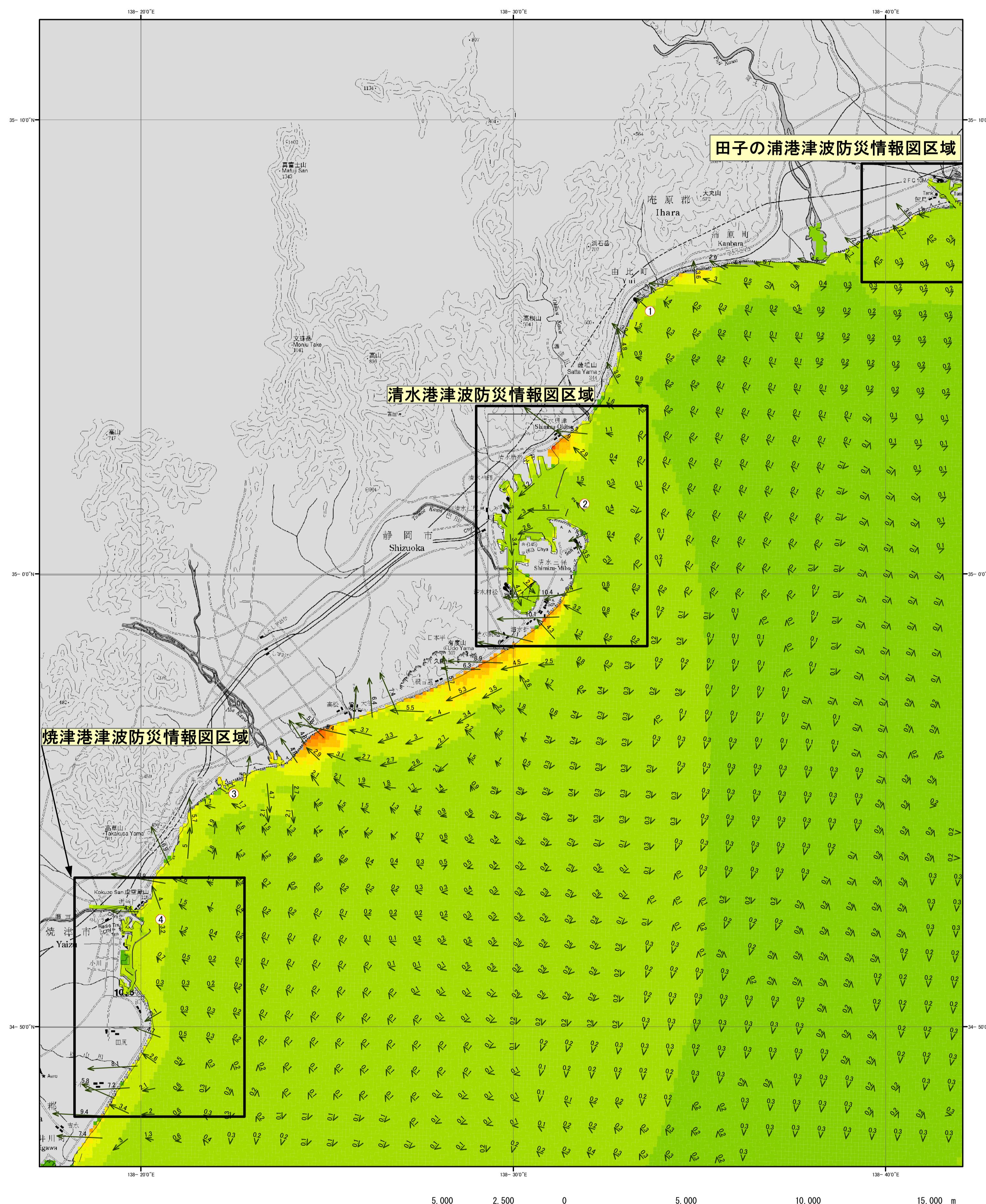
計算条件：最高水面・150mメッシュ

隆起量：平均120cm(8cm~195cm)

N
W E
S
1:100,000
座標系：ルートルイ法
測地系：世界測地系(WGS84)

- この図は150mメッシュで計算した津波の概要版であり、港内や沿岸域の情報は必ずしもシミュレーション結果が正確に反映されていません。
- なお、「津波防災情報図」(50mメッシュで計算)が整備されている海域はそれを参照してください。

- この地域は震源域である。震源域では、地震発生直後に津波が発生する可能性があるため、津波の到達時間は記載していない。

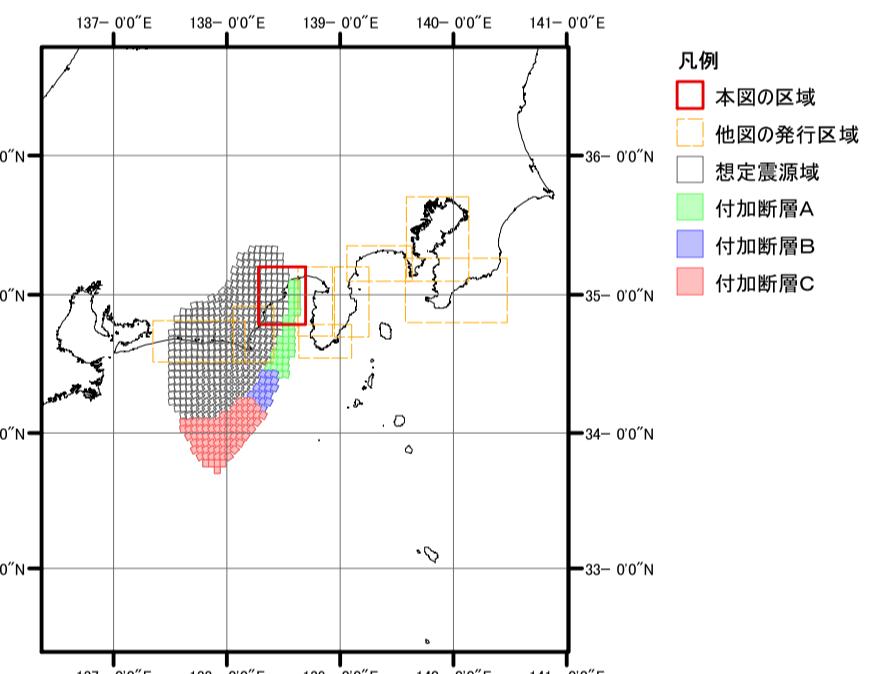


凡例

○	経時変化図出力点
■	最大水位上昇
■	500~最大544cm
■	450~500cm
■	400~450cm
■	350~400cm
■	300~350cm
■	250~300cm
■	200~250cm
■	150~200cm
■	100~150cm
■	50~100cm
■	50cm未満

進入時最大流 [knot]
→ 6 knot
→ 4 knot
→ 2 knot

本図の区域及び想定震源域と付加断層の位置



	中央の概位	中央の深さ
想定震源域	34°4'N, 138°0' E	19 km
付加断層A	34°4'N, 138°3' E	4 km
付加断層B	34°1'N, 138°2' E	6 km
付加断層C	34°0'N, 138°0' E	7 km

本図は、中央防災会議「東海地震に関する専門調査会
(平成13年12月11日)」で公表された断層モデルを使用した。

- この図は発災時から6時間のシミュレーションを行い作成しています。
- 最大流の矢印は、6時間のシミュレーション時間から150mメッシュ7*7個(1050m * 1050m)の49個から最大のものを表示しています。
- 表示されている流速矢印は津波による流向・流速を示しており、海潮流の要素は考慮されていません。
- 経時変動図(水位変動のグラフ)は最高水面を基準面として、6時間の津波の水位変動を表示しています。時間による潮汐の変化は考慮されておらず、津波は計算条件の基準面に収束します。
- 経時変動図に記載されている赤線は、潮汐が無いと仮定したときの海面(平均水面)を現しています。
- 陸部の情報は海図から採用しています。
- 計算に使用した地形データは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本地形データ及び海図を作製する際の基礎データを使用しています。

- この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号平:15総使、第672号)

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

